



～診療所ナースのいつもの休日～

大原診療所 看護師 長濱祐子

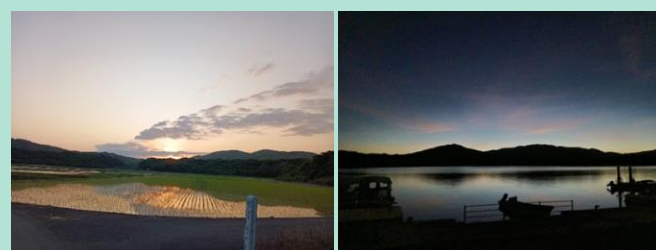
早朝のまだ薄暗い中、ピーキュルルルと演歌歌手のように声を転がすアカショウビンの囁りで目を覚まします。雨が降ったかと思ういつの間にか晴れ間が差し、天気の良いところ。雨が降ると、どこからともなく庭にはセマルハコガメが出てきてお散歩しているのを見かけます。

西表島は、みなさんが良くご存じのイリオモテヤマネコなどの生物多様性を有する地域として2021年に世界自然遺産に登録されました。西表島の人口は2,400人程、1日平均の観光客数は約700人程（令和6年度）なので、約3,000人の方々を2か所の県立八重山病院付属の診療所でみています。

各診療所では、医師、看護師が1人づつ、常駐しています。月に一度の週末だけは輪番制となっており、島で一か所のどちらかの診療所（大原もしくは西部）のみで島全体をみています。医療スタッフは、その月に一度の週末のみ自由が許されており（どこに行ってもよい）、それ以外は診療所の近くから離れません。そして、常時スタッフ用携帯を持ち歩き、緊急コールが来るのではと待機しています。なので、平日時間外（閉所時間以外）や土日祝日も目に見えない鎖に繋がれているような感覚…と言ったら語弊があるかもしれませんが、だからこそ月に一度の自由な週末は万歳する程、待ち遠しいのです。なので、思ったよりも島にいても島の観光はできていません。とある週末に徒歩圏内のカフェでランチをしている

と、スタッフ用携帯の呼び出し音がけたたましく鳴ったため、取る前から胸がドキドキしました。注文した食事を前に、私の食事よ…さようなら。と見切りを付け、そそくさと診療所へ向かいます。ですが、全てがそのような忙しい土日ではありません。遠くには行けないけれど、穏やかな休日の方が大半を占めます。遠くには行けない休日のおかげで、日々の生活を丁寧にすることが少しだけ出来るようになりました。島では町のように何でも手に入るわけではありせんので、食べたくても売っていないものは自分で作るしかないので。フライパンでパンを焼いてみたり、穴の開いた靴下を縫って、もう少し長く履いてみたり、網戸の張替えをしたり、大型家電が故障したら運んだり、庭の掃き掃除から花壇の手入れをすること、花を愛でる喜びも感じられるようになりました。思春期頃には及びませんが、島で生活することで、壮年期になった今、スponジの如くとまではいきませんが、日々の何げない生活の中から楽しみを作り出すことを学び、成長を感じています。

辺りが一段と寝静まる頃、フクロウのホーホーという声をうっすらと聴きながら、明日から頑張ろうと眠りにつくのでした。



令和7年4月1日より選定療養費が改定されました

当院では、これまで初診時に紹介状が無い方には初診料に加えて選定療養費を請求させていただいておりましたが、令和7年4月1日よりその額が改定となりました。

令和7年3月31日まで (税込み)		令和7年4月1日より (税込み)	
初診時選定療養費	2,200円	→	医科 7,000円 歯科 5,000円
再診時選定療養費	0円	→	医科 3,000円 歯科 1,900円

●選定療養費をご負担いただく場合

- ・紹介状を持たずに受診される方
- ・当院で診療後、傷病が治癒している方（医師の判断による）
※最終受診から一定期間をすぎて受診がない場合も、治癒したと判断される場合があります
- ・当院から他院を紹介された後、ご自身の都合で紹介状なく当院を受診する場合（再診時選定療養費）

地域の診療所やクリニックに『かかりつけ医』を持ち、必要に応じて紹介状をもらい当院を受診するようお願いいたします。

詳しくは お知らせ（八重山病院ホームページ）をご覧ください →



やいまむん

沖縄県立八重山病院広報誌（令和7年6月発行）

発行 / 沖縄県立八重山病院
編集・企画 / 沖縄県立八重山病院 広報委員会

〒907-0002 沖縄県石垣市真栄里584-1
TEL:0980-87-5557（代表） FAX: 0980-87-5835



沖縄県立八重山病院広報誌

やいまむん

Vol.15
2025.6

令和7年度もよろしくお願いいたします



- 新院長、新副院長 挨拶
- 令和7年度 看護部紹介
- 簡易終夜睡眠ポリグラフィー検査の紹介
- 診療所だより
- 選定療養費が改定されました

電子カルテ更新に伴う作業のため、一般診療（外来、予定入院、予定検査、予定手術等）を停止します。※救急等の対応に関しては通常通り行います。

日時：令和7年7月31日（木）午前11時00分～8月1日（金）午前7時00分まで

詳しくは お知らせ（八重山病院ホームページ）をご覧ください →





田仲院長、砂川副院長 就任挨拶



院長 田仲 斉

院長挨拶

2025年4月1日付けで県立八重山病院長を拝命しました田仲 斉（たなか ひとし）です。

自治医科大学を1991年に卒業、県立中部病院での臨床研修を皮切りに離島診療所（阿嘉、粟国）、再び中部病院に戻りその後は北部病院、沖縄県病院事業局、南部医療センター、宮古病院そして今年度八重山病院の勤務ということになります。

診療所勤務の時代には離島の苦勞を感じることもありましたが、公人としてはあらゆる年齢の患者さんのさまざまな疾患を診療することで大きく成長をさせて頂きました。また私人としては地域の皆さんと親密な時間を過ごすことができ、大変充実した時間を経験しました。離島には格別の思いがあり、管理者としての責任の重さを実感しています。

災害への対応、人口減少そして社会保障費の圧迫など医療を取り巻く環境は厳しいものがありますが、当院の理念である「地域とともに八重山の医療を守る」ため職員一同、誠意をもって診療にあたります。当院の診療圏である八重山列島住民の方々が安心して暮らせるよう努めてまいりますので引き続き当院へご指導ご助言を賜りますようお願い申し上げます。



副院長 砂川 綾子

副院長挨拶

4月より、副院長（看護）に就任しました砂川 綾子（すながわ りょうこ）と申します。

八重山病院で勤務して20年を過ぎました。この20年で看護を取り巻く環境は大きく変化してきました。地震や台風などの自然災害、コロナのパンデミックで医療従事者の活躍する場所も多岐にわたり役割も拡大してきました。一方、我が国は超高齢化を迎え生産年齢人口の減少により働く担い手不足が生じています。それは看護師にも及んでおり人材確保は喫緊の課題です。県立病院の採用も厳しく、欠員補充ができず、当院もやむをえず今年3月に1病棟を一時閉鎖することになりました。（地域の皆様にはご迷惑をおかけしています。）

厳しい状況ではありますが、人材不足を補うためにも今年度は医療、看護DXを活用し業務の効率化を目標に掲げ改善を行います。間接業務が多く、直接ケアが充分できない課題においては、看護提供体制を見直し患者の傍で聴いて触れる看護の本質を取り戻していきたいと考えています。当院は離島の中核病院として急性期医療や地域との連携などの大切な役割があり、住民の最後の砦として、安心して医療が受けられる体制整備は重要と考えます。私も若いころ離島診療所看護師の経験があり、離島特有の文化に触れ、なにより住民の温かさに助けられました。この経験は今でも大切な宝物で離島医療の充実は私の看護人生の中でも大きなウエイトを占めています。

離島での貴重な経験が看護師達のやりがいにつながるよう、働く環境を整えることも私の役割だと思っています。そして地域住民の皆様、看護師双方にとって「八重山病院に来て良かった」と言ってもらえるような病院づくりに看護師一同努力して参ります。



令和7年度

看護部紹介

看護部長 上江洲 美智子



令和7年4月から看護部長を拝命しました上江洲美智子と申します。八重山病院勤務は31年ぶりの2度目の勤務で、緊張しています。

副院長、看護部長、副看護部長2名、新しく3名の看護師長を合わせ、合計17名でスタートしました。看護師は新人11名含む43名の新たな仲間を迎え、267名で看護業務を行っています。

今年度は、病院・看護部の理念のもと、「**患者さんのそばでよく聴き、触れる看護**」を目標に以下の取り組みを行います。

1. 患者に価値をおいたセル看護方式へ変更していきます。
2. 電子カルテ入れ替えに伴い、看護部門システム（**チームコンパス**）を導入します。看護記録の効率化、見える化により看護記録にかかる時間が減少し、記録の質が向上します。

看護師一人ひとりが、いきいきとやりがいを持って働き、地域住民から信頼される病院を目指します。



【3列目】 東(HCU)、眞喜志(地連)、宮城(副部長)、前新(2東/外来)、嘉良(透析)、大城(医療安全)、仲宗根(副部長)
【2列目】 目取真(2東/外来)、南風原智恵(4西)、金城(3西)、南風原のぞみ(手術室/放射線)、山根(4東)
【1列目】 島仲(NICU/GCU)、砂川(副院長)、上江洲(部長)、福岡(感染管理)、根間(2東)、山城(こころ科)

令和7年度

〈看護部理念〉

私たちは患者様本位の良質で安全な看護を提供します

〈方針〉

看護の基本を遵守した
安心・安全な療養環境の提供

よろしくお願いします。



簡易終夜睡眠ポリグラフィー検査の紹介

臨床検査科 生理検査室 與那城 孝龍

私が所属している生理検査室では、超音波検査を始め心電図、呼吸機能検査、脳波検査から耳鼻科の検査まで幅広く検査を行っています。

スタッフは臨床検査技師が5名、受付事務が1名の6人で日々業務にあたっています。

今回は睡眠時無呼吸症候群という病気を見つける簡易終夜睡眠ポリグラフィー検査を紹介します。睡眠時無呼吸症候群とは、睡眠中に無呼吸や低呼吸を起こすことで睡眠の質が低下する疾患です。具体的な症状として夜間の中途覚醒、いびき、日中の眠気、集中力の低下、注意力の低下などがあります。また、睡眠時無呼吸症候群を発症するリスクとして肥満や加齢、高血圧などがあります。特に肥満は発症リスクが高く、肥満患者の半数が中等症以上の睡眠時無呼吸症候群を合併すると言われています（「睡眠時無呼吸症候群の診療ガイドライン2020」より）。

石垣市の肥満割合は平成28年度時点において健診時のBMIベースで男性47%、女性38%（「石垣市ホームページ第2期保健事業実施計画」より）であり、石垣市は全国と比較して肥満の割合が高い傾向にあります。前述した症状に悩まれている方も多いのではないのでしょうか。

4月より、簡易終夜睡眠ポリグラフィー検査の取り付け説明は生理検査所属の臨床検査技師が担当しています。検査室で簡単な説明を受けた後、自宅にてご自身で装置を取り付けて就寝し、翌日以降に機器を返却する流れとなっています。自宅で検査できる為、簡便で気軽に検査ができます。前述した夜間の中途覚醒、日中の眠気、集中力の低下などの症状のある方は医師へ相談し、検査を希望してはいかがでしょうか。



写真は簡易終夜睡眠ポリグラフ装置の装着イメージです。
一人でも簡単に装着できるようになっています。